



土地利用型作物

①未来につなげる創造的復興

秋津宮農組合(熊本市東区)
組合長 上田 徳行 氏



上田 徳行 氏



被災直後の圃場



現在の圃場

『地域の明日を思い、信念をもって復興して下さい。』

熊本地震で大きな被害を受けました。多くの皆さんの支援の中でやっと麦・米・大豆が植えられるような水田に復興しました。皆様も今一番悩み時でしょうけれども、克服していただいて、あの時は大変だったなと思える状況が来ればいいと思います。

復旧・復興の歩み

震災前	被災 (平成28年4月)	再建 (約4年間)	現在
- 耕地面積:172ha - 稲作:115 ha - 大豆:67 ha - 小麦:65 ha (耕地利用率:144%) - 大区画化圃場(0.5ha/筆)の面積:9.4ha - 組合員:140名	- 圃場の亀裂や隆起により生育中の小麦の収穫が不可となりほぼ廃棄 - 水稻の作付も不可 - 用排水路、農道、橋梁、民家も甚大な被害	- 補助事業を活用し、農地の大区画化(0.3ha→0.5~1.0ha/筆)と排水対策による水田の汎用化を実現 - 夏季は水稻再開までの4年間、大豆のみを栽培	- 耕地面積:172ha - 稲作:90 ha - 大豆:86 ha - 小麦:121ha (耕地利用率:173%) - 大区画化圃場(0.5ha/筆)の面積:140ha - 組合員:141名

復旧・復興のポイント

- 被災後、直ちに組合員仲間と今後の方針を協議。水稻作付不可と判断し、全面大豆栽培への切り替えを決断した。
- 被災3カ月後、地元関係者による「秋津地区未来創造プロジェクト会議」を立ち上げた。原形復旧ではなく、地域の将来を見据えて農地の大区画化等により発展を目指す創造的復興を実施した。